水曜祈祷会　バイブルスタディー　＆　祈りの課題

コリント教会へのパウロの手紙Ⅰ

水曜祈祷会　コリント教会へのパウロの手紙Ⅰ

「コリント教会へのパウロの手紙」のポイント

1 コリント教会への手紙のアウトライン

A：教会の問題についての対処

(1)教会の分裂について(1章10節～4章21節)

(2)教会の無秩序な状態について(5章1節～6章20節)

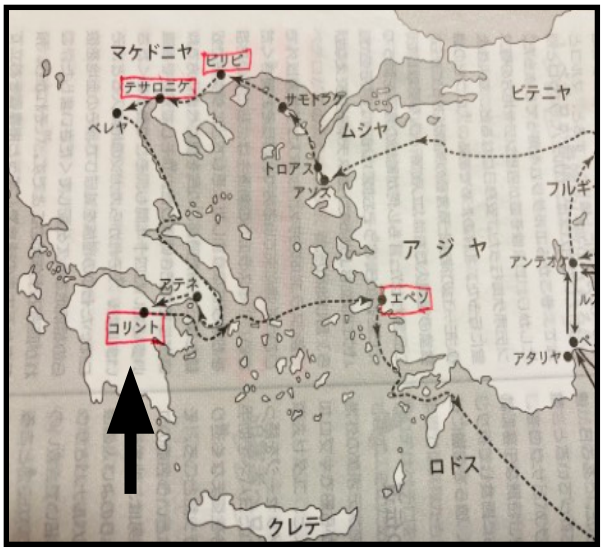
B：教会の質問に答える

(1)クリスチャンの結婚に関する教え(7章1節～40節)

(2)クリスチャンの自由に関する教え(8章1節～10章33節)

(3)礼拝に関する教え(11章1節～14章40節)

(4)復活に関する教え(15章1節～16章24節)



「コリント教会へのパウロの手紙」を読んでみよう

1 今日の聖書箇所：5章1節～13節

2 今日のポイント：不品行を放置しておくコリント教会

(1)前回までの復習

4章ではパウロは、クリスチャンと言われる人々の生活について語りました。4章の前半では「キリストに仕えるしもべ」「創造主の奥義を管理する者」と語りました。後半では使徒の生き方とコリント教会の人々の生き方を対象的に語りました。クリスチャンとして生きながらも、キリストを信じる事から来る不利益を甘受するよりは自分の利益になる事ばかりを追いかけていたコリント教会の人々、それとは反対に、キリストを信じるゆえに、起こり得る不利益・迫害・貧困・困難を甘んじて受けても尚感謝しつつ生きる使徒達の姿を記録し、「私のように信仰生活を送ってほしい」とパウロは語りかけました

(2)教会の中に存在する不品行な人々

1章～4章まで教会の各グループ別の分派について語ったとすれば、5章からは教会という共同体の中で過ごす個人個人に向けての語りかけとなっています。

パウロは、コリント教会の中で問題となっていた「不品行」について言及しました。その具体的な様子が1節に記録されています。異邦人と呼ばれる教会外の人ではなく、教会の中に義理の母と関係を持っている(持っている：エケイン[原語]は継続的で反復的な動詞を意味する)人がいたようです。2節ではコリント教会の人々の判断についても記録され「自分達の処置が寛大だ」と言って自らを誇っていたようです。6節を読むと「自分達をことごとく誇っている」当時のコリント教会の人々の姿がありました。自らは高い知識と知恵を持つ者であるので、知的に創造主を知っていれば、肉体的な事や行動については何をしても問題ないとする立場もありました(極端なグループをグノーシス派と呼びます)また自らは知的には正しいので、そのような自分が罪を犯すはずはないと思っていたのです。新改訳では6節を「あなたがたの高慢は良くないことです」と訳しています。霊的な高慢が教会内に発生している罪について鈍感にさせ、罪についての判断を誤らせる結果(寛大な処分)となったのです。

パウロは教会内に蔓延(はびこ)る罪について、2節では「むしろ、このような恥ずべき事を行なっている者を除名しなければならないことを思って、悲しむべきではなかったのか」と厳しい態度で臨むように語っています。しかしこのような厳しい処分を訴えるパウロの心には、罪を犯す人々への愛がありました。厳しい処分を下すように語るパウロの本心が5節後半に「それは、彼がその処分に服し、悔い改める事によって、最後に救われるためである」と語りました。

罪に陥ってイエス様から離れつつある兄弟を救うために、罪を犯した個人だけの問題として取り組むのではなく、教会全体の問題として取り組むべきだとパウロは6〜8節の中でイースト菌の例えを出しながら語りかけました。教会全体が高慢になっていた故に、罪が見逃され、キリストの体である教会が聖さを保てない現実が、コリント教会の中にありました。

(4)「社会の不品行な者と交際するな」ではない…

一方で「不品行な者」についてコリント教会では誤った認識があったようです。パウロが以前、コリント教会の人々へ送った手紙の中で「不品行な者と交際してはいけない」と記載された文章について10節から解説を加えています。この世は既に不品行で満ちているので、そのような人々と交わりを避けようとするならば、この社会での生活が不可能になり、地球外で生活するしか方法はありません。11節でパウロが語るように、パウロが以前送った手紙で記録された「不品行な者」とは、クリスチャンの中」であり、「一緒に食事をしてはいけない」という意味も「聖餐式を含む教会の中での親しい交わり」を意味していました。

罪を犯し続ける兄弟に対して、まるで罪がないかのように接し寛大に振る舞うのは、逆に罪を容認しキリストの体である教会から教会らしさである「聖さ」を無くしてしまう事になりかねない危険な認識である事をパウロは説きました。教会の回復の為に、罪を犯したクリスチャンの最終的な回復の為にも罪については厳しく接するように語りかけています。それと同時に、罪に陥っているクリスチャンに対して、マタイ18章15〜20節に記録されているように、祈っていかなければなりません。

3　分かち合ってみましょう

自分達がキリストについてよく知っているという高慢が、コリント教会の中で起こっていた罪に対する誤った対処につながっていきました。「教会は罪人の集まり」とはよく言いますが「罪を継続して見逃す、罪の継続を許し続ける集まり」ではありません。誤った寛容さは、深刻な罪を犯している私たちの兄弟姉妹を更なる罪へと誘い、破滅へと誘ってしまうからです。

だからと言って、自分も罪を犯し続けながら生きているので、他人の罪を指摘する事は難しい事です少なくともコリント教会のように深刻な罪がありながらも、自分達が正しい共同体だと高慢になり、罪を罪として扱えなくなるような事態は避けたいものです。それゆえに、教会の誰かを基準にして「あの人よりかは罪が少ない・多い」と考えるのではなく、いつも聖書を基準に何が正しく、正しくないのかを判断する霊的な基準を持ち続ける事が大切です。

これから、教会が直面する問題として、人権や自由という名の元に行われる罪にどう向き合うかが問われる事になります。(例)同性愛、婚前前性関係、不倫などなど・・・

1 教会共同体と記念館の為に

（1)ビジョン達成のために

①「創造をベースに、99%へ福音を」という教会のビジョンが、創造主によって祝福されますように。

②2021年度ビジョン「創造主を信じ、その大能の力によって強くして頂きなさい」の実現の為に。
クリスチャン一人一人が、主に繋がり、主に強められるように。

（2）教会のため

①教会の本質的な働きー礼拝と伝道の働きの為

②教会の共同体の関係祝福のために

③教会の霊的成長・成熟のために

④地域との関係

（3）ノアの箱船記念館のため

①ノアの箱船記念館が伝道のために、クリスチャンの信仰形成の為に用いられます様。

②ノアの箱船記念館の財政の祝福、ノアの歩道の為

（4）教役者のために

①堀越葉満主事のため　②宮崎聖牧師家庭のため

2 教会員の為に

（1）病にある方々の為に・平安があります様に

（2）教会からしばらく離れている方の為

（3）次世代の為に

①日曜学校の祝福の為

②ユースの為に(ユースの学び・恋愛結婚・職場での祝福・海外にいる若者・他住の若者)

（4）今月の祈祷課題の方々のために

3 伝道と宣教の為に

（1)洗礼準備・聖書の学びをされている方々のため

（2）受洗後の学びをされている

（3）伴侶の救いの為

（4）伝道のためのグループ(感染から守られる様に)

①レプトン　②ゴスペル・フラ　③卓レシア　④女性集会　⑤創愛クラブ　⑥クラフトカフェ

⑦ノア・パーク

（5）ロゴス・ホープ号乗船